

# 技術者向け最新情報交流

## コンクリート技術交流会

日本コンクリート技術

第9回コンクリート技術交流会(主催・日本コンクリート技術)が11月1日、10時から第一ホテル両国(東京都墨田区)で開催される。

現場の最前線で活躍する建設技術者の役に立つ最新情報を提供することを狙いとして、日本コンクリート技術(本社、東京都墨田区両国、社長||篠田佳男氏)が平成16年から毎年開催しているもの。東日本大震災後は5回にわたり「コンクリート技術大会」として被災



昨年の様子

地で開催、平成28年から「コンクリート技術交流会」に戻して開催している。

【参加費用】事前申込1万3500円、当日申込1万5000円(資料集CD-ROM費用・消費税込)。

【申込方法】日本コンクリート技術のウェブサイトで参加申込書をダウンロードし、EメールまたはFAXで申し込む。

【問い合わせ】日本コンクリート技術。電話03(5669)6651、FAX



会場案内図

03(3632)2970。Eメール・nmutata@ic-tech.co.jp  
【プログラム】

●開会挨拶(10時~10時5分)長瀧重義(東京工業大学名誉教授)

●パネルディスカッション(10時5分~12時)「ITの活用によるコンクリート施工(仮題)」

【概要】国土交通省は建設工事における生産性向上と魅力ある工事現場の実現を目指してi-コンストラクションを推進しており、その一環として施工現場ではITの導入が進んでいる。会場では、現場で活用が進む最新の技術の開発とその適用の現状等について有益な情報提供と議論を展開する。

【コーディネーター】久田真(東北大学大学院)

【パネリスト】綾野克紀(岡山大学)▽片平博(土木研究所)▽本間淳史(東日本高速道路)▽原田修輔(全生連)▽橋詰幸信(大成建設)▽名倉健二(清水建設)

●パネル展示(13時20分~16時20分)

【内容】出展各社が保有するコンクリートの現場施工に役立つ製品や技術に関して、参加者に最新情報の収集と情報交換を行う場を提供。各出展社が対象技術のプレゼンテーションを行った後、会場内に設けた各社の展示ブースに分かれて個別に詳細説明や質疑応答を行う。

▽愛知製鋼/コンクリート構造物の高耐久化・メンテナンス低減に貢献するステンレス鉄筋コンクリートバー「サスコン」▽青木あすなる建設/レベル1地震時は「固定効果」、レベル2地震時は「エネルギー吸収効果」を発揮する、ダイス・ロッド式摩擦ダンパーを用いた既設橋梁の耐震性向上▽ASTON協会/コンクリート躯体防水材・表面保護材CS-21シリーズおよびデッキプレート合成品質向上を望む現場の声で開発されたスペーサー▽安藤・間

▽固まり始める時点、発熱して温度変化する時点、吸水して成長する時点、初期過程のすべてにわたって十分な思いやりを▽VKS K/Jシステム/赤外線法によるコンクリート表面の浮き・剥奪等の非接触調査▽コンステック/鉄筋の腐食度を迅速に測る「MULCO(マルコ)」, 鉄筋を火災から守るPCM「EPO耐火モルタル」▽太平洋セメント/太平洋セメントが拓くコンクリート技術▽ニチバン/コンクリート構造物に発生したひび割れを補修する低圧注入工法について、補修材注入の際にひび割れ表面の目止めを行うシール材の代替となるシールテープ「せこたんTM」▽PCM工法協会/床版・橋脚・トンネルの長寿命化なら、PCM(マグネライン)工法▽フューリック/未来をカタ

チに変える創造力▽前田工織/Mother of Innovation空想を、ともに現実へ。▽前田製管/自走式プレキャスト製品多機能据付工法「MAJEST(マジエスト)」でICT・建設現場の生産性向上に寄与します。▽三井住友建設/「サステインクリート®」は、超低収縮・超低発熱・超低炭素・高流動・高強度という特徴すべてを備えた、新しいコンクリートです。

●特別講演(16時30分~18時)▽「空想を、ともに現実へ」。舟橋政司(前田建設工業 ICI総合センター)インキュベーション推進グループ長

【講演内容】前田建設は今年創業100周年を迎えました。次の100年に向けて、社会課題解決につながる新たな価値創造を実現していくため、ICI総合センターを開設しました。

特別講演2▽「建設コンサルタントの現状と課題」村田和夫建設コンサルタント協会名誉会長

【講演内容】わが国における建設コンサルタントの誕生、その制度や市場動向の現状を概観し、改正労基法施行を踏まえた働き方改革や各種課題について紹介します。

●閉会の挨拶(18時~18時5分)

篠田佳男(日本コンクリート技術)意見交換会(18時10分~20時)